

地域研究委員会アジアの地域協力の学術的ネットワーク構築分科会

第24期 第1回会合

出席者：西崎文子(世話人)、宮崎恒二、大日方純夫、我部政明、貴志俊彦、木宮正史、小谷汪之、金山直樹、羽場久美子

欠席者：なし

日時：令和元年(2019年)9月4日(水曜)15時00分~17時00分

会場：日本学術会議 6階、6-C(1)会議室

議題

1) 役員を選出

委員長：羽場久美子、副委員長：木宮正史、幹事：大日方純夫、小谷汪之

2) 今年1年の活動

前2-3期の活動について、中国韓国や歴史教科書問題を含む会合がなされ、それに基づいてシンポジウムが開かれたことなどが、羽場久美子より報告された。

本分科会の各メンバーは、それぞれ学術の場で、多くの貴重なネットワークを、東アジア、アジア、欧州、さらに国際法の地域連携などに持っており、それを基盤に学術活動、特に近隣国の学術研究者を招いての共同シンポジウムなどの企画構想が議論された。

3) アジアの地域共同の現実と学術ネットワーク形成

今後アジアの地域とどのような学術協力、学術ネットワークを構築していくべきかを考えるうえの重要な問題提起として、次の方々に報告を行っていただき、それに基づき議論を行った。

(1) 油井大三郎氏(東京大学・一橋大学名誉教授)

「1920年代の教訓と東アジアの地域協力」

(2) 木宮正史氏(東京大学大学院総合文化研究科教授)

「日韓の葛藤とその構造的要因：学術協力の役割とは何か？」

4) 今後の活動計画

3の議論に基づき、今後1年間間に、シンポジウムを行うこと、メンバーの都合の良い時期は、12月であろうということで、日程の調整を行うこと、それぞれがどのような人と形でシンポジウムを行うか案を考えてくることなどが確認された。

以上